

新活動年度

手写  
マンドリンクラシック  
編集係  
1965.12.24.

1965.12.24.

去る十二月十一日の定期部会に於て四十一年度の新役員選挙が行われた。開票の結果新部長副部長は次の如く決定した。

副部長	岩崎 勝一
秋山 悅子	修
二川より先十一月二十七日の部会にて旧部長により規約改正針討議が生じ、規約十五条について討議がなされた。其点は、役員の改選期であり結局第十五条「部長及び副部長の任期は二年」とし、改選期は一月とす。これは次のようになら	本 題 の 中

の定期演奏会終了後三  
十日以内とす。改  
正理由は、秋の演奏会終了後  
から一月の役員改選期までの活動  
が空虚になるのをさへ、その期間を  
有効に活用し、一年かかりて次の演  
奏会に備えるべきであるという  
のである。これに関する諸事項の  
改正は別の機会にゆずりたまつたが、  
この新しい規約の下で新役員の選  
舉が行われたのである。改正の意  
味を鑑み運営部門並びに技術部門  
役員も決定され、新しい鳴鶴年度  
の地図めは急ピツチで進んでいる。  
去る十二月十五日には役員の引き  
つきも行ぬれ、正式に四十一年度  
のクラブは動きだした。旧役員の方々の  
方々の協力を乞うると共に豊富な  
経験がこ川からもクラブに対する  
助言になることを期待する。  
一年生の新役員は下級生の意見を  
反映させようといふ立場を役目を持  
つてゐる。女性の活躍も期待され  
よう。いろいろな問題をふくみな  
がらもとにかくここに新しい活動  
年度は始まつた。

楽しいクラブを作るために

岩崎栄

私たちの「ラブもいよいよ」  
先輩達の並々ならぬ努力に  
発表会はもうそん・懇親演  
テレビ出演、マンドリン連  
問題等、内部はもううんの  
外部からも、その存在を認  
るまでに成長してきました  
もまたまたクラブを主宰さ  
外部の要請に答えることの  
実力を養つていかねばなら  
あもひます。地方の国立大  
楽サークルとしきの特色を  
ラグの個性を、さらには

十二月十六日午後三時より  
○教室に於て、第一回部

コンクールが開催された。部四班に分れ、腕を競つた。この日は、どんよりとした雪が降りきうな気候で、手もえがちであつたが、各班ともイト満々！

一班  
アシダルーズ  
皇帝内舞団  
本朝音話し繪本  
ベルシヤの市場  
クリスマスキヤロール  
二班  
三班  
四班  
なび  
小川のさやき  
多色な名画に花を咲  
審直の結果は次のとあり  
て

力かか同  
は時時に  
た難音に  
いしが飯  
へいが鳥  
ん曲先生  
よを生四  
ろこ班级  
し班三  
いな班一  
いきの

送を機に新らしい段階に踏み入った。皆の期待と信望を背負つた新役員の面々は、新しい理想と熱意を抱いて、クラブに新風を吹き込もうと、誠心誠意努力する覚悟の様である。そして、その成果はもう我々の前に現れ始めている。では、彼らはいかなるビジョンを持つか。彼らの頭脳に描かれているのだろうか。クラブアーティスティックの日々に動いてはいるが、確固たるビジョンを携えて進んでくる様には思えない。この状態に於ては、たゞ一時的前進どころかの旅に思えて、いつも性格折するかもしれない危機感が存する。私たちは、彼らのビジョンの中に、日頃描りきっているクラブの理想像を見つけたい。いやつと積極的にワラブ原各々のワラブに寄せる理想を、そのビジョンの中



卷二

樂しいクラブを  
作るため

岩崎栄

私たちの「ラブ」もいよいよ四〇  
先輩達の並々ならぬ努力によつて  
発表会はもちろん、慰問演奏会や  
テレビ出演、マンドリン連盟加入  
問題等、内部はもちろんのこと、  
外部からも、その存在を認められ  
るまでに成長してきました。私達  
もますますクラブを充実させて、  
外部の要求に答えることのできる  
実力を養つていかねばならぬ」と  
おもひます。地方の国立大学の音  
楽サークルとしての特色を、この  
ラブの個性を、さらにはフチリ

役目を持  
胡侍さん  
ふくみさん  
しい活動

部内音楽コンクール	
十二月十六日午後三時より、	〇音教室に於て、オーバー回部内音楽
放題	コンクールが開催された。部員は
技能	四班に分れ、腕を競つた。
優勝	この日は、どんよりとした今にも雪が降りそうな気候で、手もふるえがちであったが、各班ともアイト満々だ!
殊熟	飯島先生に審査を依頼し、課題四
第一班	赤いくつしをはじめ
オニ班	アンダルーズ
オニ班	皇帝円舞曲
オニ班	本朝音話しが本
オニ班	クリスマスキヤロル
オニ班	小川のさわや
オニ班	など、多彩な名曲に花を咲かせた。
オニ班	審査の結果は次のとおりである。
オニ班	當時に飯島先生から「寒さのため、難しい曲をこなすのがうとうとする努力」ということ

と べ	一班ニ三班四班	エリート賞純情賞心臓賞ユーモア賞
の評をえられた。	このような機会をのがす」となく 今後の訓練と精進を期待します。	



部内音楽コロニー

十二月十六日午後三時より、午後一時教室に於て、オーネ回部内音楽コンクールが開催された。部員は四班に分れ、腕を競つた。  
この日は、どんよりとした今にも雪が降りそうな気候で、手もふるえながら、各班ともファイト満々！  
飯島先生に審査を依頼し、課題曲

四班  
クリスマスキヤロル  
小川のさやき  
など、多色なる畠に花を咲かせた。  
審査の結果は次のとあります。

優勝 殊勲 技能 故障 時間 飯島 先生 から  
第一班 第二班 第三班 第四班  
午時に飯島先生から  
第一班 第二班 第三班 第四班  
がががが、難しがががが、いい曲をこなさない感じがする努力といふこ  
はいたいへんよろしくといふこ

と  
一班二班三班四班  
エリート賞 純情賞 心臓賞 ユーモア賞

はいえな。以前のものを参考にし色々と新しく試みて行く。改良すべきところはどんどん直す。まだ伸びる可能性は大あります。これがよいといつ走まつ形がない。即ちまだクラブとして完全に安定していい。これが信頼がない。と云ふことである。クラブはしばらく新しい音楽を作ることとかいうが、クラブの最終目的であることは誰でも知っている。しかしこれを理解している者は以外と少い。クラブが外に向ければ向くほど、又信頼ができるはできるほど、完全な音楽が要求される。大学の自分たちのサークルといえども、はだ暑い。が楽しむだけでは在庫が許さない。されば練習はきびしくなければならない。自分も小さながらも音楽家であるといつ自覚を持つべきである。我クラブは一般に音楽の勉強がたりないので、なにだうか。もつともつと知識を持たねばならない。音楽追求精神なる精神こそ我々に一番必要なものではないだろ? が、云ふべきは、これを二の次と云ふ者にはクラブ員として李冬子(?)へもよはないといえよう。音楽技術という一つの目標を共に達成しあつ中に初めて新の人間が生まれる。こへは音楽追求をあらそかにすれば今

と併設として打掛丁と共に外観に対しても、引こみ思案ではなく、積極的に進出してもやきたいと思いま。松達の「クラブ」は、この三年間に急速に発展してきましたものであるだけに、その中部の組織も不備な点が多く、又、くどれどれ、クラブに対する考え方、期待の方向も違うことはあしろ当然といわなければならぬし、又、それはかえつて、この「クラブ」の特色となりうるものでしよう。クラブを楽しむのは皆こん一人一人なのです。自分自身の樂しみを「クラブ」から引きだしていくください。消極的な姿勢からいはば何も生れません。皆で「クラブ」をやつてゆきましょう。私が皆に望みたいのは、この自分の樂しみ

今後に望む

又新しい年度が始まり、わくわくして、も十数年前遡るに作成度満点の

## 新役員決まり

いよいよ我々も五年目を迎え、ここに希望と情熱にて燃えた新役員、それに続く部員の皆により新しく発展への才一歩が踏み出された。

運営専門役員  
部長 岩崎

副部長 岩崎栄一  
渡辺修一  
秋山悦子

レクレ一  
テニス  
塙原忠親  
尾純子

書記

會計

庶務條

文集係

山松尾田 鈴沢荒野  
口下沢中 木田川月沢  
幸喜代泰美許子佐通子夫順洋堯子子幸

Ful.	Bass	Guit	dola	2nd	1st
1 1 4 1	副 副 副 副	副 副 副 副	副 副 副 副	副 飯 竹 藤	副 渡 内 天
宗 像	渡 辺	岩 崎	原 昭	野 清	小 林
英 哉	喬 三	森 光	修 平	文 乃	誠 明

各パートリーダーの抱負と方針

去る十二月十一日には、新役員の選出と更に引き続きパート変更と、我がマンドリンクラブは、すがり装いも新たになり、来年の演奏会目として早くも活動を開始致しました。

今日はファイト満々、張り切っていき各新パートリーダーにそろい抱負と方針を語ってもらいました。抱負と方針を語ってもらいました。抱負は必ず合奏の持ち味を十分楽しめと練習をしたい、即ち一人の音ではなく合奏の音、全体の音を追求である。それには何と云ってもパート練習の強化が必要だと思う。合奏は個人プレーではなく、合奏者が十分なチームワークの上に成り立つという大原則を一人一人が身をもって感じ、事り出来る合奏練習をしていくと思う。

パートにいる人は、技術的にへただと思われていますがその考え方には絶対に譲りてはならないと確信しています。必ずパート一欠けても合奏は成り立たないことは明らかですから。セカンドの持ち味は美くしい和音にあります。合奏をしながら和音を楽しむなんて素晴らしい音楽が不足である。せめて二人がDolceはかりませんか!」

「ドリーパートで一番問題なのは

## 各バーナーダーの

### 抱負と方針

去る十二月十一日には、新潟駅の

退出後更に3ヶ月経て、  
と、我がマンドリンクラブは、すが  
り衰いも新たになり、来年の演奏

会目として早くも活動を開始致しました。

各新パートリーダーにそり抱負と方針を語ってもらいました。

1st まず合奏の持ち味を十分樂めること練習をした。即ち一人の音ではなく、合奏の音。全体の音の追

求である。それには何と云つてま  
ハート練習の強化が必要だと思ふ。  
今ハハジマく名實を

合衆は個人主義の者、十分な干渉の権力を持つといふ大原則を一人、一人が

身とも、了感じの事の出来合  
練習をしたいと思う。

「バートにいる人は、技術的にへなへだと思われていますが、その考え方などは、どうぞお聞きしたい。

は成り立たないことは明らかだ

から。セカンドの持ち味は美く  
い音にあります。合奏をしな  
らお首を出しむなんて素晴らしい

Dolaiはアリませんか！」  
ドーライバーートで一番問題なり  
アリ不毛である。されて二人

樂器の不足は、十分音の出せる樂器を持ったい全体の人口らずの人数で重要な

割りを果たさねばならないので人練習に体力を入れてもらいたいとして全員で本気で走り切った。

「バート練習では個人的レベルで目標としたゼミナール形式

「演説会がオ一目標でヨニ  
は異論はないが、よくまでモ

段の活動の発展に於ける意義は、  
どういう意味で建設的練習に成  
るか。

を創り上げる事に意味ね、ア  
シナ。又ギリの部内発表会だ  
けう未だ出来

う面も練習した。ターナー全奏。

### 読書会・講義

おおそマンドリンとは縁のない読書会が何故開催される事になつたのでしょうか。我がクライアントの特色は樂器を彈くことにあります。それが大塚のサークルとして考めた時、又どう考えなひまでも「あなたは今、クラゲの在り方に満足していますか」と問われた時、果たして「はい」だす人が満足もせり」と答えるでしようか。当然サークルとしての限度もあり至りますがもう少しこうみて欲しいと漠然と思うものが、あるいは、ありませんか。それを具体的にした一つの試みとして読書会を開かれると致ります。ただと思われます。次に読書会の一トを引用させていただきます。『精神と各人の自覺を促せたらと尼ハマオ一回目』



は新年度から始めて序々に仕上げゆきたいと思ふ。どのペーパーのダーランの方々も、講演技術の向上を謳つていますので、練習には相当力をいがさが予想されます。しかし、この若ハサウエイ熱を燃して、励むる真面目な精神が、マンドリン

読書感は眞の友人と腹の底から  
語り合うようなものでなくては、  
新しい試みとしての読書会と長づ  
べきさせ意義あるものとしようと  
け次とせんか。二回一人間失格に  
オニ回「出家とその弟子」オニ回

余裕のある生活を